

野生鳥獣保護管理技術者育成研修(カワウ)講義資料

この講義資料は、下記の研修のために使用されたものです。

そのため、情報が古い場合があります。

また、Webでの掲載のために一部修正や削除、構成の変更をしているものがあります。

2005年度 野生鳥獣保護管理技術者育成研修(カワウ)概要

対 象: 都道府県の鳥獣行政担当者、水産行政担当者、内水面漁業関係者、その他
カワウの保護管理、調査、被害防除に関わる者

開 催 日: 2005年8月31日(水)～9月2日(金) 2泊3日

場 所: 滋賀県立文化産業交流会館(滋賀県米原市)

講師と科目: 福田道雄(日本におけるカワウの生態)

: 羽山伸一(野生動物保護管理の考え方と実際)

: 横山昌太郎(鳥獣保護法と特定鳥獣保護管理計画、

及び広域保護管理について)

: 石田朗(カワウの森林生態系に与える影響とねぐら・コロニーの管理の考え方)

: 田中雅彦(竹生島のカワウの繁殖状況と管理)

: 高木美貴(伊崎国有林(滋賀県近江八幡市)における取組)

: 馬淵英明(滋賀県の琵琶湖と流入河川における被害対策)

: 榎隆人(カワウに食害されにくいアユの放流手法開発)

: 池田直樹(人工魚礁による魚類の隠れ家設置実験について)

: 亀田佳代子(カワウの採食生態)

野 外 実 習: 竹生島(滋賀県) コロニーの視察

現地説明者: NPO 法人バードリサーチ

人工魚礁による魚類の隠れ家設置実験について

岡山県農林水産部水産課 池田直樹

1 事業の目的

カワウによる食害はアユ、ハエ、フナ等、岡山県の内水面漁業の重要魚種に広く影響を及ぼしていると考えられており、これらの被害低減策を検討していくことが求められている。

岡山県では、平成14年度には県下のカワウの生息実態、飛来数及び飛来地における漁業被害の実態を調査し、国でも平成10年度から平成14年度にかけて、カワウに関する生態調査や被害低減策の検討を行った。

平成15年度からは、県下の河川でカワウ被害防除対策のための実験を行っており、平成16年度に人工魚礁による魚の隠れ家の設置及び花火によるカワウ威嚇を行った。

平成17年度は16年度に設置した人工魚礁の効果を調査を行っている。

2 事業主体

岡山県（岡山県内水面漁業協同組合連合会に業務を委託）

3 事業の内容

「カワウ被害防除対策実証試験」

○人工魚礁による魚の隠れ家の効果調査

内容：平成16年11月12日に、河川内にコンクリートと間伐材を組み合わせた人工魚礁を設置し、その後定期的にアユ・オイカワ等魚の隠れ家としての有効性を調査する。

方法：設置後に人工魚礁に入っている魚の数、種類等を目視観測する。

4 実施時期

平成16年度～平成18年度（予定）

5 これまでの成果

平成16年11月の魚礁設置後、平成17年2月、同5月に人工魚礁の調査を行い、オイカワ、カワムツ等について集魚効果があることが確認できたが、カワウ飛来時の隠れ家としての効果は不明である。今後も季節ごとに人工魚礁の効果調査を継続するとともに、その有効性・活用方法等を検討する。

カワウ被害防除対策実証事業

人工魚礁による魚類の隠れ家設置実験

岡山県農林水産部水産課
池田直樹

(協力)
岡山県内水面漁業協同組合連合会
ランドス株式会社

岡山県下のカワウの主なコロニー分布図



- 県下広範囲に推計2,000羽(平成14年度調査)
- 飛来地域は河川中流部へと分散

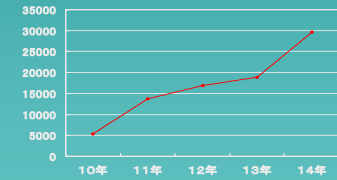
岡山県内水面漁業協同組合連合会調査(平成17年度)

カワウによる被害

- ◆ カワウによる被害
- 約3000万円(平成14年度各市町村被害報告)

被害額の推移

単位:千円



(各市町村被害報告まとめ)

アユ・オイカワ等が被害を受けていると懸念される

カワウ被害を減らすには

銃器等による駆除

花火等による追い払い

魚の保護

カワウによる食害の低減

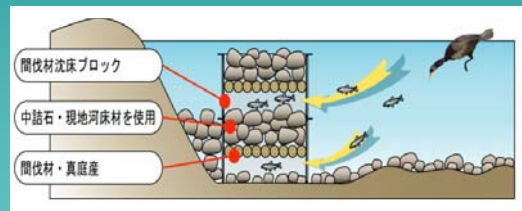
岡山県でのカワウ被害防除対策

- ◆ 銃器による駆除
 - 一時的な効果はあるが、翌年には再び増加
 - コロニー拡散の可能性あり
 - 出来る場所は限られる
- ◆ 花火による威嚇
 - 一時的な効果あるが、効果の持続は困難
 - 出来る場所が限られる

いずれも効果は限定される

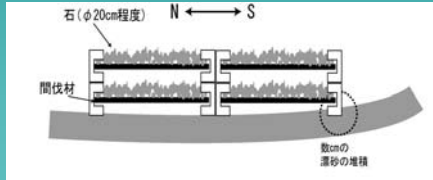
- ◆ カワウの個体数を減少させることが難しいのであれば、魚を守ることを考えるしかない。

魚類の避難場所を増やせばよいのでは？



人工魚礁の構造

- ◆ コンクリートと間伐材の組み合わせ
 - 間伐材は自然素材であり、利用の促進にもつながる
- ◆ 魚礁の上には河川内の石を配置
 - 河川内の環境を出来るだけ利用



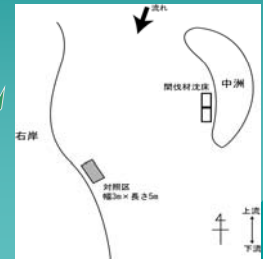
7

人工魚礁の設置場所

設置位置(旭川中流域)



設置場所(河川中州付近)



8



9

人工魚礁の効果

潜水による調査結果

調査時期	平成17年2月	平成17年5月
水温	6.3°C	12.6°C
確認種	フナ類、オイカワ類、オヤニラミ、ドジョウ類	フナ類、カワムツ類、アブラハヤ、ムギツク、ニゴイ、ナマス
確認尾数	303	302



カワムツ類



魚礁内部の状況

10

人工魚礁設置に関する課題等

- ◆ 人工魚礁の効果
 - オイカワ・カワムツの集魚効果あり
 - 漁協が最重要視するアユへの効果が不明
 - カワウ飛来時の逃げ込み効果が不明
- ◆ 人工魚礁設置上の問題点
 - 設置場所の限定(河川管理者との協議)

11

- ◆ 今後も調査を行い効果が実証されれば・・・



河川管理者が河川改修工事の際に魚礁構造の構造物を取り入れる

花火等追い払いの取り組みも地道に行っていく必要がある

12